

機械学習（3回目）

創域理工学部 情報計算科学科

桂田 浩一

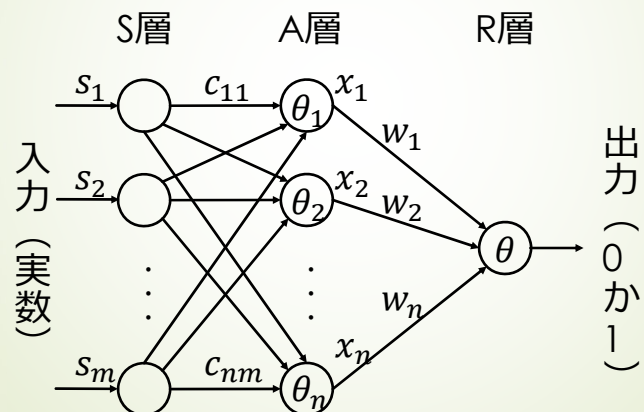
1

9/18/2023

2

前回の復習（単純パーセプトロン）

- S-A層間は学習する要素がない
⇒ A-R層間のみを学習



9/18/2023

3

前回の復習（学習アルゴリズム（1））

1. 入力パターンベクトル $\mathbf{s}_p = (s_{p1}, \dots, s_{pm})$ と教師信号 t_p ($p = 1, \dots, P$) の組を用意する. (P は学習用データ数)
2. 結合荷重 $\mathbf{w} = (w_1, \dots, w_n, w_{n+1})$ の初期値をランダムに小さな値に設定する. さらに学習率 η ($0 < \eta \leq 1$) を設定する.

9/18/2023

4

前回の復習（学習アルゴリズム（2））

3. 学習用データから一つの入力ベクトル $\mathbf{s}_p = (s_{p1}, \dots, s_{pm})$ を選び, \mathbf{s}_p に対するA層の各ノードの出力 x_{pj} を次の式で計算する.

$$x_{pj} = \begin{cases} 1 & (\sum_{i=1}^m c_{ji}s_{pi} - \theta_j \geq 0) \\ 0 & (\sum_{i=1}^m c_{ji}s_{pi} - \theta_j < 0) \end{cases}$$

$\mathbf{x}_p = (x_{p1}, \dots, x_{pn}, 1)$ とする

4. \mathbf{x}_p からR層の出力 out_p を次の式で計算する.

$$out_p = \begin{cases} 1 & (\mathbf{w} \cdot \mathbf{x}_p \geq 0) \\ 0 & (\mathbf{w} \cdot \mathbf{x}_p < 0) \end{cases}$$

9/18/2023

5

前回の復習（学習アルゴリズム（3））

5. Out_p と t_p を用いて次の式で w を更新する.

$$w \leftarrow w + \eta(t_p - Out_p)x_p$$

(注) $x_{n+1} = 1$ なので $x_p \neq 0$

6. 全ての s_p に対して w が変化しなければ終了.
そうでなければ 3.~ 5. を繰り返す.

9/18/2023

6

本日の内容

- 学習可能性について
- 学習できることの証明

9/18/2023

単純パーセプトロンの学習可能性（1）

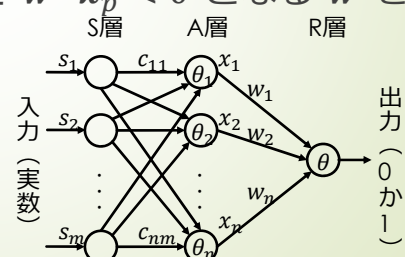
7

- A層の出力 x_p を二つのクラスに分ける.

$$\begin{cases} X^+: \text{R層から1を出力すべきもの} (t_p = 1 \text{のもの}) \\ X^-: \text{R層から0を出力すべきもの} (t_p = 0 \text{のもの}) \end{cases}$$

次に, X^+ に含まれる x_p について $w \cdot x_p > 0$,
 X^- に含まれる x_p について $w \cdot x_p < 0$ となる w を考える.

この w は全ての x_p に対して正解を出力する



9/18/2023

単純パーセプトロンの学習可能性（2）

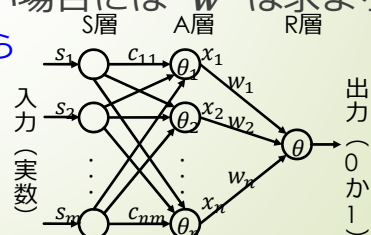
8

- $w \cdot x_p = w_1 x_{p1} + \dots + w_n x_{pn} + w_{n+1} x_{p(n+1)}$
 であり, $w \cdot x_p = 0$ は w を法線ベクトルとする $n+1$ 次元の超平面を表す.

このような w は平面 $w \cdot x_p = 0$ で必ず $w \cdot x_p > 0$ (X^+) と $w \cdot x_p < 0$ (X^-) の領域を分けることから, X^+ と X^- の領域が一つの平面で分けられない場合には w は求まらない.

X^+ と X^- が上のように平面で分けられることを「線形分離可能」という

「線形分離可能」でなければ学習できない

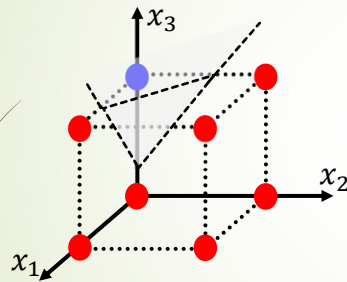


9/18/2023

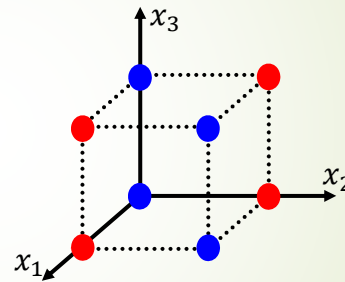
9

単純パーセプトロンの学習可能性（3）

線形分離可能な例



線形分離不可能な例

● X^+ ● X^-

$$X^+ = x_1 \oplus x_2$$

$$w_1 x_{p1} + \dots + w_n x_{pn} + w_{n+1} x_{p(n+1)} = 0 \Rightarrow w_1 x_{p1} + \dots + w_n x_{pn} = \theta$$

9/18/2023

10

パーセプトロンの収束定理（1）

（定理） X^+ と X^- が線形分離可能であれば

$$\mathbf{w}_{t+1} = \mathbf{w}_t + \eta(t_p - \text{Out}_p)\mathbf{x}_p \quad (t \text{ は更新回数})$$

に従って結合荷重を更新すれば有限回で X^+ と X^- を正しく分離する。

（証明） X^+ と X^- を線形分離する \mathbf{w}^* （すなわち正解を与える \mathbf{w}^* ）と学習途中の \mathbf{w}_t について、 \mathbf{w}^* と \mathbf{w}_t のなす角を θ とするとき G を次式で定義する。（ただし一般性を失うことなく $\|\mathbf{w}^*\| = 1$ と正規化されているとする）

$$G = \frac{\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_t}{\|\mathbf{w}_t\|} = \cos(\theta) \leq 1$$

9/18/2023

11

パーセプトロンの収束定理（2）

$$G = \frac{\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_t}{\|\mathbf{w}_t\|} = \cos(\theta) \leq 1$$

簡単化のため初期の荷重 $\mathbf{w}_0 = \mathbf{0}$ と仮定する.

G の分子について, \mathbf{w}_t が更新されるとき,

$$\begin{aligned}\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_{t+1} &= \mathbf{w}^* \cdot (\mathbf{w}_t + \eta(t_p - \text{Out}_p)\mathbf{x}_p) \\ &= \mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_t + \eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{x}_p)\end{aligned}$$

ここで $\mathbf{x}_p \in X^+$ なら $\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{x}_p > 0$ であり, このとき $t_p = 1$, $\text{Out}_p = 0$ となるので $\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{x}_p) > 0$ となる.
($\mathbf{x}_p \in X^-$ のときも同様に $\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{x}_p) > 0$)

9/18/2023

12

パーセプトロンの収束定理（3）

η , $t_p - \text{Out}_p$, $\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{x}_p$ はそれぞれ定数であることから,
 $\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_{t+1} \geq \mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_t + \delta$ となる δ ($\delta > 0$) が存在する.

$\mathbf{w}_0 = \mathbf{0}$ と仮定すると,

$$\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_N \geq \mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_0 + N\delta = N\delta$$

9/18/2023

13

パーセプトロンの収束定理（４）

$$G = \frac{\mathbf{w}^* \cdot \mathbf{w}_t}{\|\mathbf{w}_t\|} = \cos(\theta) \leq 1$$

簡単化のため初期の荷重 $\mathbf{w}_0 = \mathbf{0}$ と仮定する.

$$\begin{aligned} G \text{ の分母の二乗について, } \mathbf{w}_t \text{ が更新されるとき,} \\ \|\mathbf{w}_{t+1}\|^2 &= \mathbf{w}_{t+1} \cdot \mathbf{w}_{t+1} \\ &= \|\mathbf{w}_t\|^2 \\ &\quad + 2\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}_t \cdot \mathbf{x}_p) \\ &\quad + \eta^2(t_p - \text{Out}_p)^2 \|\mathbf{x}_p\|^2 \end{aligned}$$

9/18/2023

14

パーセプトロンの収束定理（５）

$$\|\mathbf{w}_{t+1}\|^2 = \|\mathbf{w}_t\|^2 + 2\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}_t \cdot \mathbf{x}_p) + \eta^2(t_p - \text{Out}_p)^2 \|\mathbf{x}_p\|^2$$

ここで $\mathbf{x}_p \in X^-$ とすると, \mathbf{w}_t が更新されている（出力が誤っている）ことから $t_p = 0$, $\text{Out}_p = 1$ であり $\mathbf{w}_t \cdot \mathbf{x}_p \geq 0$ となる.

よって $2\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}_t \cdot \mathbf{x}_p) \leq 0$ ($\mathbf{x}_p \in X^+$ も同様)

ここで $\|\mathbf{x}_p\|^2$ の最大値を M とすると,

$$2\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}_t \cdot \mathbf{x}_p) + \eta^2(t_p - \text{Out}_p)^2 \|\mathbf{x}_p\|^2 \leq M$$

9/18/2023

15

パーセプトロンの収束定理（6）

$$\begin{aligned}\|\mathbf{w}_{t+1}\|^2 \\ = \|\mathbf{w}_t\|^2 + 2\eta(t_p - \text{Out}_p)(\mathbf{w}_t \cdot \mathbf{x}_p) + \eta^2(t_p - \text{Out}_p)^2 \|\mathbf{x}_p\|^2\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{以上より } \|\mathbf{w}_{t+1}\|^2 &\leq \|\mathbf{w}_t\|^2 + M \\ \|\mathbf{w}_N\|^2 &\leq \|\mathbf{w}_0\|^2 + NM = NM\end{aligned}$$

$$\text{よって } G \geq \frac{N\delta}{\sqrt{NM}}$$

$$G \leq 1 \text{ より } 1 \geq \frac{N\delta}{\sqrt{NM}}$$

$$N \leq \frac{M}{\delta^2} \quad M, \delta \text{ は定数より, } N \text{ は有限である}$$

9/18/2023

16

出題予定の演習課題

- パーセプトロンの問題点について

9/18/2023